

まるやま さだお
丸山 定夫 (1901~1945)



俳優。松山市出身。広島を根拠とする青い鳥歌劇団に入団し、各地を巡業。一時根岸歌劇団に加わった後、演劇研究とその発表の場として開設された築地小劇場の第1期研究生となり、第2回公演「狼」で新劇俳優としてデビューした。以後、草創期の新劇の多くの舞台を踏み、個性的異色俳優として人気を博した。代表作に成瀬巳喜男監督の「妻よ薔薇のやうに」（アメリカで初上映された日本映画）や室生犀星原作、木村莊十二監督の「兄いもうと」などがある。その後、徳川夢声らと苦楽座を結成し、「無法松の一生」の松五郎役で激賞された。昭和20年、苦楽座移動隊（桜隊）を率いて巡回慰問中、広島で原爆に遭い逝去した。

略歴

明治34(1901)年5月31日	松山市 ^{きたきょうまち} 北京町に、丸山常次とコフジの四男として生まれる。
大正11(1922)年	広島を根拠とする青い鳥歌劇団に入団し、各地を巡業する。
大正12(1923)年	上京し、根岸歌劇団に加わる。
大正13(1924)年	築地小劇場の第1期研究生となり、第2回公演「狼」で新劇俳優としてデビュー
昭和4(1929)年5月	新築地劇団を結成
昭和8(1933)年	映画会社PCL（現、東宝映画）に所属し、映画界に入る。
昭和17(1942)年	徳川夢声らと苦楽座を結成
昭和20(1945)年8月6日	苦楽座移動隊（桜隊）を率いて巡回慰問中、広島で原爆に遭う。
8月16日	被爆者捜索本部のあった広島県厳島の存光寺において、45歳で永眠。墓所は京都市東山区林下町の知恩院と鎌倉市小町の妙隆寺

(写真提供：丸山由利亜氏)

〈関連図書〉

- ・八田元夫『ガンマ線の臨終』 未来社 1965年
- ・丸山定夫『丸山定夫・役者の一生』 ルポ出版 1970年
- ・菅井幸雄『築地小劇場』 未来社 1974年
- ・新藤兼人『さくら隊散る』 未来社 1988年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・丸山定夫著、菅井幸雄編『俳優・丸山定夫の世界』 未来社 1989年
- ・藤本恵子『築地にひびく銅鑼』 TBSブリタニカ 2001年
- ・『発掘えひめ人－近代を拓いた101人－』 愛媛新聞社 2002年

〈ゆかりのある場所〉…(P318, 217~218)